

平成25年行政事業レビューシート (環境省)

事業名	国立公園利用適正化システム策定費		担当部局庁	自然環境局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成18年度～		担当課室	国立公園課		課長 鳥居 敏男		
会計区分	一般会計		政策・施策名	5. 生物多様性の保全と自然との共生の推進 5-2 自然環境の保全・再生				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	自然公園法第10条第1項		関係する計画、通知等	生物多様性国家戦略2012-2020				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	尾瀬国立公園が独立したことによる新たな利用動態を踏まえ、尾瀬国立公園全体の利用者の集中による自然環境への影響や利用者のストレスを把握し、科学的な知見に基づいた適正な利用を実現するための各種取り組みを地域とともに推進し、国立公園の科学的、順応的な管理運営の実現を図る。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	年間30万人以上の利用者が訪れる尾瀬国立公園において、利用の適正化を図るため、利用による自然環境への影響や利用者のストレスを調査し、そこから得られた「適正収容力」をもとに、利用資源調査等を含めた地区ごとの利用の在り方を検討するとともに、利用の少ない入山口への利用者誘導対策、混雑状況や自然・歩道の状態などの現地情報を発信など、利用分散化のための対策を行う。 また、ツキノワグマによる被害を防止するため、ツキノワグマの行動解析、利用者への周知・注意喚起とともに、関係者・関係機関による被害防止体制の強化を図る。 さらに、地域と積極的に連携するため、各課題への取り組みを検討するワーキンググループを設置する等、管理運営体制の全体的な枠組み構築を検討する。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
		補正予算	23	21	14	15	0	
		繰越し等	0	0	0	0		
		計	0	0	0	0		
	執行額	23	18	14				
	執行率 (%)	96	85	99				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		成果実績	単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (25年度)
	尾瀬国立公園における科学的、順応的な管理運営の実現。 尾瀬の自然環境や利用状況に対応した管理運営の質を高める事業であり、定量的な指標を示すことはできない。			—	—	—	—	—
			達成度	%	—	—	—	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		活動実績 (当初見込み)	単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	協議会(協議会下部組織も含む)の実施回数			回	9	5	3	—
					—	—	(3)	(3)
	報告書数		活動実績 (当初見込み)	件	3	3	2	—
				—	—	(2)	(2)	
単位当たりコスト	活動実績は上記のとおりであるが、当該事業は尾瀬の自然環境や利用状況に対応した管理運営の質を高める事業であり、活動実績をもとにした単位あたりのコストの算出にはそぐわない。		算出根拠	—				
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	国立公園等調査管理委託費	15	0	事業の見直しを踏まえ、「国立公園管理計画等策定調査費」と統合し、一体的に実施していくこととする。				
計	15	0						

事業所管部局による点検					
		項目	評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	尾瀬国立公園は首都圏に近く、ゴミ処理やマイカー規制等様々な対応策を先駆的に行ってきた我が国における代表的な国立公園であり、従来のとおり、尾瀬国立公園にみられるツキノワグマ対策や利用分散化等の課題を検討し、全国の国立公園へ普及していくことは、管理主体である国が実施することが適当であり優先度も高い。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○		
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○		
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	支出先は、国立公園の自然条件や利用状況及びその課題に精通していることや、高い企画力と専門性が必要であることから、企画競争により選定しており、適正である。	
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○		
	単位当たりコストの水準は妥当か。		—		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		—		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○		
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		—			
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		—	各事業とも調査や対策の試行等を踏まえた体制の構築、取組の本格運用を実施することとしており、科学的な知見に基づいた順応的かつ実効性の高い事業である。また、尾瀬国立公園において確立された管理手法は全国の国立公園においても活用されている。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○		
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		—	—	
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名		
	—	—	—		
点検結果	尾瀬国立公園の課題は、利用者が脆弱な湿原に整備された木道等に集中することであるが、このため木道等の区間のみであった適正収容力を踏まえた利用の在り方の検討及び利用誘導を行い、かつ、関係者との連携体制の下、ツキノワグマの出没や外来種対策等への即時対応をとることにより、適正な利用を維持することができている。国立公園の管理においては、保護と利用のバランスをとることが重要であるとともに、近年は生物多様性の保全に対する社会的要請を踏まえた柔軟な管理が求められており、これまでの尾瀬国立公園における当該事業の成果が全国の国立公園の管理において活用されるなど、一定の大きな役割を果たしたといえる。一方で、今後は、これらの知見を生かし各国立公園の実情を踏まえた地域毎の管理方法の検討を行うことが必要である。				
	外部有識者の所見				
行政事業レビュー推進チームの所見					
現状通り	引き続き効率的な執行に努めること。				
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
廃止	事業の統合を行い、「220 国立公園管理計画等策定調査費」と一体的に実施していくこととする。				
備考					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年	309	平成23年	192	平成24年	200

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.中央開発株式会社			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	主任技師等	5.1			
その他	消耗品費、通信運搬費、一般管理費、消費税	1.2			
賃金	アンケート調査員等	0.9			
旅費	アンケート調査旅費等	0.5			
印刷製本費	アンケート調査票、報告書	0.2			
計		7.9	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	中央開発株式会社	平成24年度尾瀬国立公園自動車利用のあり方検討調査	7.9	1	99.6
2	財団法人 尾瀬保護財団	平成24年度尾瀬国立公園利用適正化推進事業	6.5	1	98.9